

表3-32 年齢とのクロス集計(女性)

	現在の職種(女性、再雇用前)						合計
	29歳以下	30~39歳	40~49歳	50~59歳	60歳以上	不明	
<b>60歳以降の公的年金受給までの資金</b>							
配偶者の賃金収入	9	15	4	3	2	0	33
子供の賃金収入	0	1	1	0	0	0	2
自営業などの事業収入	1	0	0	0	0	0	1
公的年金以外の年金	3	13	3	3	0	0	22
財産収入	2	1	0	0	0	0	3
貯蓄の取りくずし	21	34	37	19	0	0	111
その他	3	8	6	4	1	0	22
無回答	4	1	2	3	0	0	10
<b>現在の仕事に必要な能力(複数選択)</b>							
目や耳の感覚	13	18	11	12	2	0	56
身体の筋力と持久力	2	3	5	10	2	0	22
手先の正確な動作	15	23	14	11	0	0	63
専門分野の経験や知識	20	38	29	7	0	0	94
アイデアなどの発想力	8	18	11	7	0	0	44
原因分析や考察をする力	17	13	17	8	0	0	55
人脈を活用する力	5	17	11	7	0	0	40
部下や業務を管理する能力	6	8	7	3	0	0	24
<b>退職希望年齢</b>							
65歳を超えても勤務したい	2	2	4	5	0	0	13
65歳くらいまで勤務したい	4	6	11	5	1	0	27
60歳以降、2、3年勤務したい	3	5	3	5	0	0	16
60歳以降は勤務したくない	5	13	14	6	1	0	39
60歳未満で退職したい	4	7	6	3	0	0	20
現時点では分からない	24	38	15	7	1	0	85
無回答	1	2	0	1	0	0	4
<b>再就職判断に関する意見(複数選択)</b>							
人事が産業医の意見を尋ねて良い	11	12	11	7	0	0	41
健康診断を実施しても良い	14	25	20	11	0	0	70
過去の健康記録を参照しても良い	6	6	10	8	0	0	30
過去の病欠や休職の履歴を参照して良い	8	9	9	6	0	0	32
改めて健康状態を評価すべきではない	1	3	2	2	0	0	8
わからない	21	38	25	10	2	0	96
<b>再雇用時の希望業務(複数選択)</b>							
これまでの技能・知識・経験を活かせる仕事	16	28	24	13	1	0	82
これまでより心理的ストレスの少ない業務	14	25	26	11	0	0	76
これまでより身体的負荷の少ない業務	11	13	6	5	0	0	35
これまでより労働時間が短い業務	13	20	12	12	0	0	57
再教育や再訓練を受けること	3	6	3	1	0	0	13
特に希望はない	10	13	6	4	1	0	34
合計	43	73	53	32	3	0	204

	現在の職種（女性、再雇用前）						合計
	29歳以下	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60歳以上	不明	
<b>60歳以降の公的年金受給までの資金</b>							
配偶者の賃金収入	(20.9%)	(20.5%)	(7.5%)	(9.4%)	(66.7%)	(0.0%)	(16.2%)
子供の賃金収入	(0.0%)	(1.4%)	(1.9%)	(0.0%)	(0.0%)	(0.0%)	(1.0%)
自営業などの事業収入	(2.3%)	(0.0%)	(0.0%)	(0.0%)	(0.0%)	(0.0%)	(0.5%)
公的年金以外の年金	(7.0%)	(17.8%)	(5.7%)	(9.4%)	(0.0%)	(0.0%)	(10.8%)
財産収入	(4.7%)	(1.4%)	(0.0%)	(0.0%)	(0.0%)	(0.0%)	(1.5%)
貯蓄の取りくずし	(48.8%)	(46.6%)	(69.8%)	(59.4%)	(0.0%)	(0.0%)	(54.4%)
その他	(7.0%)	(11.0%)	(11.3%)	(12.5%)	(33.3%)	(0.0%)	(10.8%)
無回答	(9.3%)	(1.4%)	(3.8%)	(9.4%)	(0.0%)	(0.0%)	(4.9%)
<b>現在の仕事に必要な能力（複数選択）</b>							
目や耳の感覚	(30.2%)	(24.7%)	(20.8%)	(37.5%)	(66.7%)	(0.0%)	(27.5%)
身体の筋力と持久力	(4.7%)	(4.1%)	(9.4%)	(31.3%)	(66.7%)	(0.0%)	(10.8%)
手先の正確な動作	(34.9%)	(31.5%)	(26.4%)	(34.4%)	(0.0%)	(0.0%)	(30.9%)
専門分野の経験や知識	(46.5%)	(52.1%)	(54.7%)	(21.9%)	(0.0%)	(0.0%)	(46.1%)
アイデアなどの発想力	(18.6%)	(24.7%)	(20.8%)	(21.9%)	(0.0%)	(0.0%)	(21.6%)
原因分析や考察をする力	(39.5%)	(17.8%)	(32.1%)	(25.0%)	(0.0%)	(0.0%)	(27.0%)
人脈を活用する力	(11.6%)	(23.3%)	(20.8%)	(21.9%)	(0.0%)	(0.0%)	(19.6%)
部下や業務を管理する能力	(14.0%)	(11.0%)	(13.2%)	(9.4%)	(0.0%)	(0.0%)	(11.8%)
<b>退職希望年齢</b>							
65歳を超えても勤務したい	(4.7%)	(2.7%)	(7.5%)	(15.6%)	(0.0%)	(0.0%)	(6.4%)
65歳くらいまで勤務したい	(9.3%)	(8.2%)	(20.8%)	(15.6%)	(33.3%)	(0.0%)	(13.2%)
60歳以降、2、3年勤務したい	(7.0%)	(6.8%)	(5.7%)	(15.6%)	(0.0%)	(0.0%)	(7.8%)
60歳以降は勤務したくない	(11.6%)	(17.8%)	(26.4%)	(18.8%)	(33.3%)	(0.0%)	(19.1%)
60歳未満で退職したい	(9.3%)	(9.6%)	(11.3%)	(9.4%)	(0.0%)	(0.0%)	(9.8%)
現時点では分からない	(55.8%)	(52.1%)	(28.3%)	(21.9%)	(33.3%)	(0.0%)	(41.7%)
無回答	(2.3%)	(2.7%)	(0.0%)	(3.1%)	(0.0%)	(0.0%)	(2.0%)
<b>再就職判断に関する意見（複数選択）</b>							
人事が産業医の意見を尋ねて良い	(25.6%)	(16.4%)	(20.8%)	(21.9%)	(0.0%)	(0.0%)	(20.1%)
健康診断を実施しても良い	(32.6%)	(34.2%)	(37.7%)	(34.4%)	(0.0%)	(0.0%)	(34.3%)
過去の健康記録を参照しても良い	(14.0%)	(8.2%)	(18.9%)	(25.0%)	(0.0%)	(0.0%)	(14.7%)
過去の病欠や休職の履歴を参照して良い	(18.6%)	(12.3%)	(17.0%)	(18.8%)	(0.0%)	(0.0%)	(15.7%)
改めて健康状態を評価すべきではない	(2.3%)	(4.1%)	(3.8%)	(6.3%)	(0.0%)	(0.0%)	(3.9%)
わからない	(48.8%)	(52.1%)	(47.2%)	(31.3%)	(66.7%)	(0.0%)	(47.1%)
<b>再雇用時の希望業務（複数選択）</b>							
これまでの技能・知識・経験を活かせる仕事	(37.2%)	(38.4%)	(45.3%)	(40.6%)	(33.3%)	(0.0%)	(40.2%)
これまでより心理的ストレスの少ない業務	(32.6%)	(34.2%)	(49.1%)	(34.4%)	(0.0%)	(0.0%)	(37.3%)
これまでより身体的負荷の少ない業務	(25.6%)	(17.8%)	(11.3%)	(15.6%)	(0.0%)	(0.0%)	(17.2%)
これまでより労働時間が短い業務	(30.2%)	(27.4%)	(22.6%)	(37.5%)	(0.0%)	(0.0%)	(27.9%)
再教育や再訓練を受けること	(7.0%)	(8.2%)	(5.7%)	(3.1%)	(0.0%)	(0.0%)	(6.4%)
特に希望はない	(23.3%)	(17.8%)	(11.3%)	(12.5%)	(33.3%)	(0.0%)	(16.7%)
<b>合計</b>	<b>(100.0%)</b>	<b>(100.0%)</b>	<b>(100.0%)</b>	<b>(100.0%)</b>	<b>(100.0%)</b>	<b>(0.0%)</b>	<b>(100.0%)</b>

表3-33 職種とのクロス集計（男性）

	現在の職種（男性、再雇用前）							合計
	技能職	技術職	事務職	研究職	営業職	その他	不明	
60歳以降の公的年金受給までの資金								
配偶者の賃金収入	56	9	4	1	0	2	0	72
子供の賃金収入	34	2	1	2	0	3	0	42
自営業などの事業収入	27	10	9	1	0	1	0	48
公的年金以外の年金	156	38	37	9	1	13	0	254
財産収入	33	9	3	4	0	4	1	54
貯蓄の取りくずし	808	288	173	79	6	56	6	1,416
その他	289	74	41	21	3	40	7	475
無回答	71	19	22	4	1	6	1	124
現在の仕事に必要な能力（複数選択）								
目や耳の感覚	615	48	44	17	2	29	8	763
身体の筋力と持久力	645	36	15	9	1	28	6	740
手先の正確な動作	474	38	26	18	1	26	3	586
専門分野の経験や知識	839	370	175	94	11	58	10	1,557
アイデアなどの発想力	410	255	119	76	7	33	5	905
原因分析や考察をする力	469	281	156	84	4	40	8	1,042
人脈を活用する力	163	146	105	26	9	20	3	472
部下や業務を管理する能力	249	178	118	36	4	28	3	616
退職希望年齢								
65歳を超えても勤務したい	90	52	27	14	2	16	1	202
65歳くらいまで勤務したい	385	139	107	41	2	43	3	720
60歳以降、2、3年勤務したい	176	33	25	7	1	13	3	258
60歳以降は勤務したくない	251	56	49	17	1	13	0	387
60歳未満で退職したい	74	18	11	8	0	6	1	118
現時点では分からない	484	145	65	33	5	33	7	772
無回答	14	6	6	1	0	1	0	28
再就職判断に関する意見（複数選択）								
人事が産業医の意見を尋ねて良い	258	126	83	27	2	19	2	517
健康診断を実施しても良い	492	214	123	51	5	46	3	934
過去の健康記録を参照しても良い	176	105	67	18	4	24	2	396
過去の病欠や休職の履歴を参照して良い	194	80	58	17	3	25	1	378
改めて健康状態を評価すべきではない	55	23	21	7	0	5	0	111
わからない	744	157	98	44	5	60	12	1,120
再雇用時の希望業務（複数選択）								
これまでの技能・知識・経験を活かせる仕事	600	244	143	77	5	48	5	1,122
これまでより心理的ストレスの少ない業務	441	188	116	35	2	57	2	841
これまでより身体的負荷の少ない業務	443	75	46	20	3	32	3	622
これまでより労働時間が短い業務	215	89	55	18	1	20	6	404
再教育や再訓練を受けること	35	15	12	4	0	1	0	67
特に希望はない	337	68	47	18	5	20	6	501
	1,474	449	290	121	11	125	15	2,485

	現在の職種（男性、再雇用前）						合計
	技能職	技術職	事務職	研究職	営業職	その他	
<b>60歳以降の公的年金受給までの資金</b>							
配偶者の賃金収入	(3.8%)	(2.0%)	(1.4%)	(0.8%)	(0.0%)	(1.6%)	(0.0%) (2.9%)
子供の賃金収入	(2.3%)	(0.4%)	(0.3%)	(1.7%)	(0.0%)	(2.4%)	(0.0%) (1.7%)
自営業などの事業収入	(1.8%)	(2.2%)	(3.1%)	(0.8%)	(0.0%)	(0.8%)	(0.0%) (1.9%)
公的年金以外の年金	(10.6%)	(8.5%)	(12.8%)	(7.4%)	(9.1%)	(10.4%)	(0.0%) (10.2%)
財産収入	(2.2%)	(2.0%)	(1.0%)	(3.3%)	(0.0%)	(3.2%)	(6.7%) (2.2%)
貯蓄の取りくずし	(54.8%)	(64.1%)	(59.7%)	(65.3%)	(54.5%)	(44.8%)	(40.0%) (57.0%)
その他	(19.6%)	(16.5%)	(14.1%)	(17.4%)	(27.3%)	(32.0%)	(46.7%) (19.1%)
無回答	(4.8%)	(4.2%)	(7.6%)	(3.3%)	(9.1%)	(4.8%)	(6.7%) (5.0%)
<b>現在の仕事に必要な能力（複数選択）</b>							
目や耳の感覚	(41.7%)	(10.7%)	(15.2%)	(14.0%)	(18.2%)	(23.2%)	(53.3%) (30.7%)
身体の筋力と持久力	(43.8%)	(8.0%)	(5.2%)	(7.4%)	(9.1%)	(22.4%)	(40.0%) (29.8%)
手先の正確な動作	(32.2%)	(8.5%)	(9.0%)	(14.9%)	(9.1%)	(20.8%)	(20.0%) (23.6%)
専門分野の経験や知識	(56.9%)	(82.4%)	(60.3%)	(77.7%)	(100.0%)	(46.4%)	(66.7%) (62.7%)
アイデアなどの発想力	(27.8%)	(56.8%)	(41.0%)	(62.8%)	(63.6%)	(26.4%)	(33.3%) (36.4%)
原因分析や考察をする力	(31.8%)	(62.6%)	(53.8%)	(69.4%)	(36.4%)	(32.0%)	(53.3%) (41.9%)
人脈を活用する力	(11.1%)	(32.5%)	(36.2%)	(21.5%)	(81.8%)	(16.0%)	(20.0%) (19.0%)
部下や業務を管理する能力	(16.9%)	(39.6%)	(40.7%)	(29.8%)	(36.4%)	(22.4%)	(20.0%) (24.8%)
<b>退職希望年齢</b>							
65歳を超えても勤務したい	(6.1%)	(11.6%)	(9.3%)	(11.6%)	(18.2%)	(12.8%)	(6.7%) (8.1%)
65歳くらいまで勤務したい	(26.1%)	(31.0%)	(36.9%)	(33.9%)	(18.2%)	(34.4%)	(20.0%) (29.0%)
60歳以降、2、3年勤務したい	(11.9%)	(7.3%)	(8.6%)	(5.8%)	(9.1%)	(10.4%)	(20.0%) (10.4%)
60歳以降は勤務したくない	(17.0%)	(12.5%)	(16.9%)	(14.0%)	(9.1%)	(10.4%)	(0.0%) (15.6%)
60歳未満で退職したい	(5.0%)	(4.0%)	(3.8%)	(6.6%)	(0.0%)	(4.8%)	(6.7%) (4.7%)
現時点では分からない	(32.8%)	(32.3%)	(22.4%)	(27.3%)	(45.5%)	(26.4%)	(46.7%) (31.1%)
無回答	(0.9%)	(1.3%)	(2.1%)	(0.8%)	(0.0%)	(0.8%)	(0.0%) (1.1%)
<b>再就職判断に関する意見（複数選択）</b>							
人事が産業界の意見を尋ねて良い	(17.5%)	(28.1%)	(28.6%)	(22.3%)	(18.2%)	(15.2%)	(13.3%) (20.8%)
健康診断を実施しても良い	(33.4%)	(47.7%)	(42.4%)	(42.1%)	(45.5%)	(36.8%)	(20.0%) (37.6%)
過去の健康記録を参照しても良い	(11.9%)	(23.4%)	(23.1%)	(14.9%)	(36.4%)	(19.2%)	(13.3%) (15.9%)
過去の病欠や休職の履歴を参照して良い	(13.2%)	(17.8%)	(20.0%)	(14.0%)	(27.3%)	(20.0%)	(6.7%) (15.2%)
改めて健康状態を評価すべきではない	(3.7%)	(5.1%)	(7.2%)	(5.8%)	(0.0%)	(4.0%)	(0.0%) (4.5%)
わからない	(50.5%)	(35.0%)	(33.8%)	(36.4%)	(45.5%)	(48.0%)	(80.0%) (45.1%)
<b>再雇用時の希望業務（複数選択）</b>							
これまでの技能・知識・経験を活かせる仕事	(40.7%)	(54.3%)	(49.3%)	(63.6%)	(45.5%)	(38.4%)	(33.3%) (45.2%)
これまでより心理的ストレスの少ない業務	(29.9%)	(41.9%)	(40.0%)	(28.9%)	(18.2%)	(45.6%)	(13.3%) (33.8%)
これまでより身体的負荷の少ない業務	(30.1%)	(16.7%)	(15.9%)	(16.5%)	(27.3%)	(25.6%)	(20.0%) (25.0%)
これまでより労働時間が短い業務	(14.6%)	(19.8%)	(19.0%)	(14.9%)	(9.1%)	(16.0%)	(40.0%) (16.3%)
再教育や再訓練を受けること	(2.4%)	(3.3%)	(4.1%)	(3.3%)	(0.0%)	(0.8%)	(0.0%) (2.7%)
特に希望はない	(22.9%)	(15.1%)	(16.2%)	(14.9%)	(45.5%)	(16.0%)	(40.0%) (20.2%)
	(100.0%)	(100.0%)	(100.0%)	(100.0%)	(100.0%)	(100.0%)	(100.0%) (100.0%)

表3-34 職種とのクロス集計(女性)

	現在の職種 (女性、再雇用前)							合計
	技能	技術	事務	研究	営業	その他	不明	
<b>60歳以降の公的年金受給までの資金</b>								
配偶者の賃金収入	2	2	25	1	0	3	0	33
子供の賃金収入	1	0	1	0	0	0	0	2
自営業などの事業収入	0	0	1	0	0	0	0	1
公的年金以外の年金	2	0	20	0	0	0	0	22
財産収入	0	1	2	0	0	0	0	3
貯蓄の取りくずし	12	6	85	4	0	4	0	111
その他	2	0	18	0	0	2	0	22
無回答	0	0	6	2	0	2	0	10
<b>現在の仕事に必要な能力 (複数選択)</b>								
目や耳の感覚	9	2	39	1	0	5	0	56
身体の筋力と持久力	4	0	12	0	0	6	0	22
手先の正確な動作	13	2	43	3	0	2	0	63
専門分野の経験や知識	7	9	71	5	0	2	0	94
アイデアなどの発想力	4	1	35	3	0	1	0	44
原因分析や考察をする力	6	3	40	6	0	0	0	55
人脈を活用する力	0	0	39	1	0	0	0	40
部下や業務を管理する能力	1	0	21	2	0	0	0	24
<b>退職希望年齢</b>								
65歳を超えても勤務したい	2	0	10	0	0	1	0	13
65歳くらいまで勤務したい	2	1	22	0	0	2	0	27
60歳以降、2、3年勤務したい	2	1	11	2	0	0	0	16
60歳以降は勤務したくない	4	3	29	1	0	2	0	39
60歳未満で退職したい	1	2	17	0	0	0	0	20
現時点では分からない	8	2	67	4	0	4	0	85
無回答	0	0	2	0	0	2	0	4
<b>再就職判断に関する意見 (複数選択)</b>								
人事が産業界の意見を尋ねて良い	3	2	32	2	0	2	0	41
健康診断を実施しても良い	7	4	55	3	0	1	0	70
過去の健康記録を参照しても良い	2	0	26	2	0	0	0	30
過去の病欠や休職の履歴を参照して良い	2	0	28	2	0	0	0	32
改めて健康状態を評価すべきではない	0	0	5	0	0	3	0	8
わからない	10	5	72	4	0	5	0	96
<b>再雇用時の希望業務 (複数選択)</b>								
これまでの技能・知識・経験を活かせる仕事	8	4	66	1	0	3	0	82
これまでより心理的ストレスの少ない業務	3	1	65	3	0	4	0	76
これまでより身体的負荷の少ない業務	2	2	25	2	0	4	0	35
これまでより労働時間が短い業務	6	1	47	3	0	0	0	57
再教育や再訓練を受けること	1	1	10	0	0	1	0	13
特に希望はない	4	2	23	2	0	3	0	34
合計	19	9	158	7	0	11	0	204

	現在の職種（女性、再雇用前）						合計
	技能	技術	事務	研究	営業	その他	
<b>60歳以降の公的年金受給までの資金</b>							
配偶者の賃金収入	(10.5%)	(22.2%)	(15.8%)	(14.3%)	(0.0%)	(27.3%)	(0.0%) (16.2%)
子供の賃金収入	(5.3%)	(0.0%)	(0.6%)	(0.0%)	(0.0%)	(0.0%)	(0.0%) (1.0%)
自営業などの事業収入	(0.0%)	(0.0%)	(0.6%)	(0.0%)	(0.0%)	(0.0%)	(0.0%) (0.5%)
公的年金以外の年金	(10.5%)	(0.0%)	(12.7%)	(0.0%)	(0.0%)	(0.0%)	(0.0%) (10.8%)
財産収入	(0.0%)	(11.1%)	(1.3%)	(0.0%)	(0.0%)	(0.0%)	(0.0%) (1.5%)
貯蓄の取りくずし	(63.2%)	(66.7%)	(53.8%)	(57.1%)	(0.0%)	(36.4%)	(0.0%) (54.4%)
その他	(10.5%)	(0.0%)	(11.4%)	(0.0%)	(0.0%)	(18.2%)	(0.0%) (10.8%)
無回答	(0.0%)	(0.0%)	(3.8%)	(28.6%)	(0.0%)	(18.2%)	(0.0%) (4.9%)
<b>現在の仕事に必要な能力（複数選択）</b>							
目や耳の感覚	(47.4%)	(22.2%)	(24.7%)	(14.3%)	(0.0%)	(45.5%)	(0.0%) (27.5%)
身体の筋力と持久力	(21.1%)	(0.0%)	(7.6%)	(0.0%)	(0.0%)	(54.5%)	(0.0%) (10.8%)
手先の正確な動作	(68.4%)	(22.2%)	(27.2%)	(42.9%)	(0.0%)	(18.2%)	(0.0%) (30.9%)
専門分野の経験や知識	(36.8%)	(100.0%)	(44.9%)	(71.4%)	(0.0%)	(18.2%)	(0.0%) (46.1%)
アイデアなどの発想力	(21.1%)	(11.1%)	(22.2%)	(42.9%)	(0.0%)	(9.1%)	(0.0%) (21.6%)
原因分析や考察をする力	(31.6%)	(33.3%)	(25.3%)	(85.7%)	(0.0%)	(0.0%)	(0.0%) (27.0%)
人脈を活用する力	(0.0%)	(0.0%)	(24.7%)	(14.3%)	(0.0%)	(0.0%)	(0.0%) (19.6%)
部下や業務を管理する能力	(5.3%)	(0.0%)	(13.3%)	(28.6%)	(0.0%)	(0.0%)	(0.0%) (11.8%)
<b>退職希望年齢</b>							
65歳を超えても勤務したい	(10.5%)	(0.0%)	(6.3%)	(0.0%)	(0.0%)	(9.1%)	(0.0%) (6.4%)
65歳くらいまで勤務したい	(10.5%)	(11.1%)	(13.9%)	(0.0%)	(0.0%)	(18.2%)	(0.0%) (13.2%)
60歳以降、2、3年勤務したい	(10.5%)	(11.1%)	(7.0%)	(28.6%)	(0.0%)	(0.0%)	(0.0%) (7.8%)
60歳以降は勤務したくない	(21.1%)	(33.3%)	(18.4%)	(14.3%)	(0.0%)	(18.2%)	(0.0%) (19.1%)
60歳未満で退職したい	(5.3%)	(22.2%)	(10.8%)	(0.0%)	(0.0%)	(0.0%)	(0.0%) (9.8%)
現時点では分からない	(42.1%)	(22.2%)	(42.4%)	(57.1%)	(0.0%)	(36.4%)	(0.0%) (41.7%)
無回答	(0.0%)	(0.0%)	(1.3%)	(0.0%)	(0.0%)	(18.2%)	(0.0%) (2.0%)
<b>再就職判断に関する意見（複数選択）</b>							
人事が産業医の意見を尋ねて良い	(15.8%)	(22.2%)	(20.3%)	(28.6%)	(0.0%)	(18.2%)	(0.0%) (20.1%)
健康診断を実施しても良い	(36.8%)	(44.4%)	(34.8%)	(42.9%)	(0.0%)	(9.1%)	(0.0%) (34.3%)
過去の健康記録を参照しても良い	(10.5%)	(0.0%)	(16.5%)	(28.6%)	(0.0%)	(0.0%)	(0.0%) (14.7%)
過去の病欠や休職の履歴を参照して良い	(10.5%)	(0.0%)	(17.7%)	(28.6%)	(0.0%)	(0.0%)	(0.0%) (15.7%)
改めて健康状態を評価すべきではない	(0.0%)	(0.0%)	(3.2%)	(0.0%)	(0.0%)	(27.3%)	(0.0%) (3.9%)
わからない	(52.6%)	(55.6%)	(45.6%)	(57.1%)	(0.0%)	(45.5%)	(0.0%) (47.1%)
<b>再雇用時の希望業務（複数選択）</b>							
これまでの技能・知識・経験を活かせる仕事	(42.1%)	(44.4%)	(41.8%)	(14.3%)	(0.0%)	(27.3%)	(0.0%) (40.2%)
これまでより心理的ストレスの少ない業務	(15.8%)	(11.1%)	(41.1%)	(42.9%)	(0.0%)	(36.4%)	(0.0%) (37.3%)
これまでより身体的負荷の少ない業務	(10.5%)	(22.2%)	(15.8%)	(28.6%)	(0.0%)	(36.4%)	(0.0%) (17.2%)
これまでより労働時間が短い業務	(31.6%)	(11.1%)	(29.7%)	(42.9%)	(0.0%)	(0.0%)	(0.0%) (27.9%)
再教育や再訓練を受けること	(5.3%)	(11.1%)	(6.3%)	(0.0%)	(0.0%)	(9.1%)	(0.0%) (6.4%)
特に希望はない	(21.1%)	(22.2%)	(14.6%)	(28.6%)	(0.0%)	(27.3%)	(0.0%) (16.7%)
<b>合計</b>	<b>(100.0%)</b>	<b>(100.0%)</b>	<b>(100.0%)</b>	<b>(100.0%)</b>	<b>(0.0%)</b>	<b>(100.0%)</b>	<b>(0.0%) (100.0%)</b>

(ア) 60歳から公的年金受給可能年齢までの主な生活資金 (図3-46~49)

労働者が、60歳で定年退職した後に、再雇用等によって継続して就業しないのであれば、公的年金を受給できる年齢に到達するまでに何らかの生活資金が必要になる。そこで、そのような生活資金の資源について尋ねた。生活資金としてもっとも多く選択されたのは貯蓄の取りくずしであり、男性全体で57%、女性全体で54%と過半数を超えていた。次いで男性ではその他(詳細不明)19%、非公的年金が10%と続いた。一方で女性では配偶者の収入と回答した者が16%と2番目に多かったが、この割合は年齢とともに低下した。職種の違いによる大きな差は認められなかった。

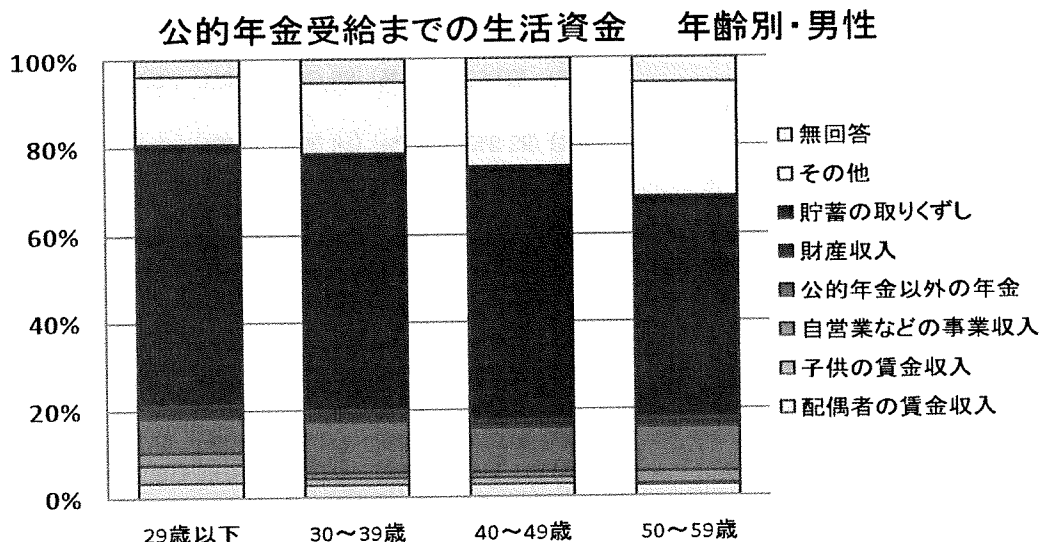


図3-46 公的年金受給までの主な生活資金 年齢別・男性、N=2,485

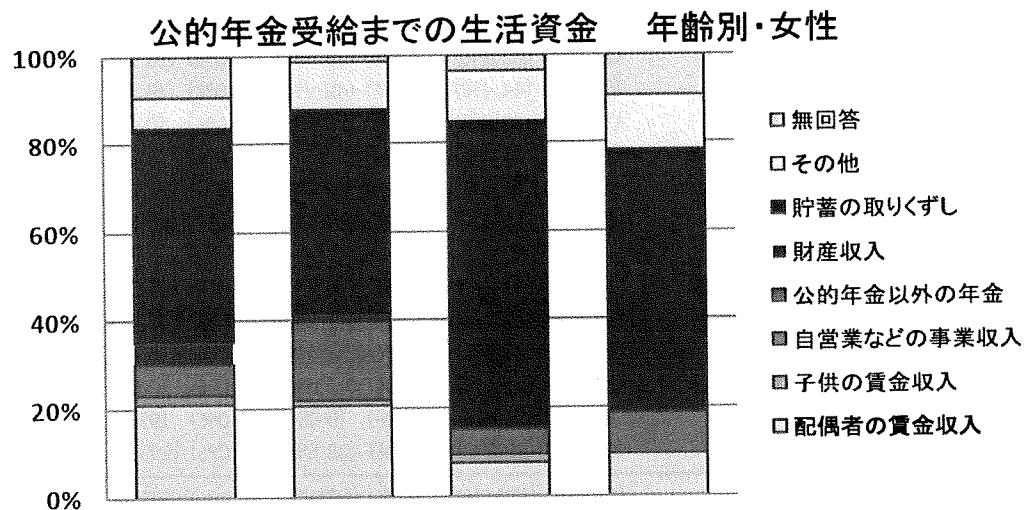


図3-47 公的年金受給までの主な生活資金 年齢別・女性、N=204

公的年金受給までの生活資金 職種別・男性

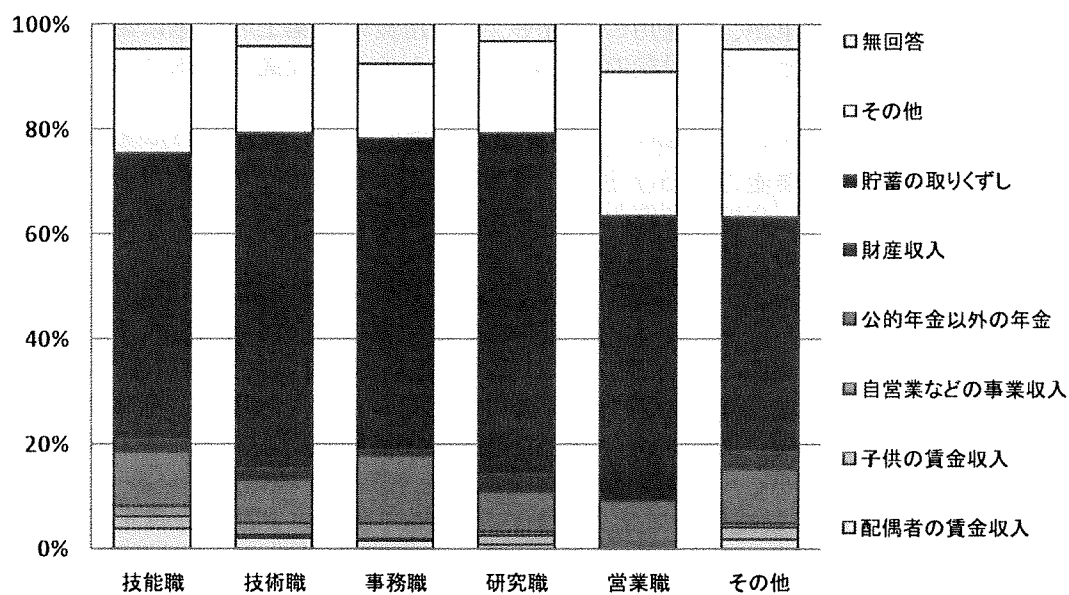


図 3-48 公的年金受給までの主な生活資金 職種別・男性、N=2,485

公的年金受給までの生活資金 職種別・女性

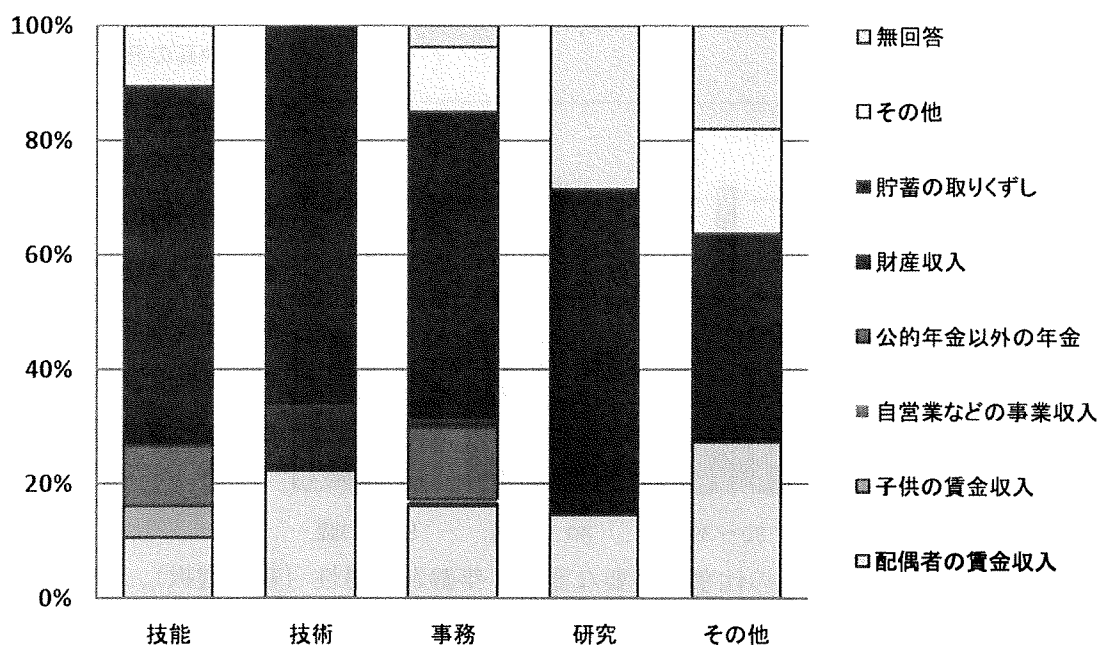


図 3-49 公的年金受給までの主な生活資金 職種別・女性、N=204



(イ) 現在の仕事に必要なとされる能力（複数選択）（図 3-50～53）

労働者が再雇用後も、退職前と同様の仕事を継続することを想定した場合、仕事の内容によっては加齢による能力の低下が、再雇用の判断や、再雇用後の就業上の配慮に影響を及ぼすことが考えられる。そこで、労働者自身が現在の仕事についてどのような能力を求められていると考えているかを尋ねた。

年齢別ではほとんどの年代で専門分野の経験や知識と回答とするものが多かった。男性では年齢が上がるにつれて、管理能力を挙げる者が増加したが女性ではこの傾向はみられなかった。また男性では全年齢を通じて、分析・考察力やアイデア発想力を挙げるものが比較的多かったが女性では分析・考察力と手先の正確な動作を挙げるものが多かった。

男性の職種別では、専門分野の経験や知識が46～100%と最も高く、次いで営業職において人脈を活用する能力と回答したものが82%、技術職、研究職において原因分析や考察する力と回答したものがそれぞれ63%、69%、アイデアなどの発想力と回答したものが57%、63%と高く、また技能職では目や耳の感覚、身体の筋力と持久力、手先の正確な動作など身体能力に関わる項目を回答したものが42%、44%、32%と高いなど、職種による特徴がよくあらわれていた。女性では研究職で分析・考察力を必要とするものが86%ともっとも高く、技術職で経験・知識と答えたものが100%と突出していた。技能職では手先の動作が68%と男性より高く、目・耳の感覚47%が男性とほぼ同等、筋力・持久力21%と比較的低かった。事務職は男性では身体機能に関わる項目が10%前後とすべて低かったのに対し女性では手先の動作や目・耳の感覚が25%前後と他の項目と同等の比率であった。

現在の仕事に必要な能力 年齢別・男性（複数選択）

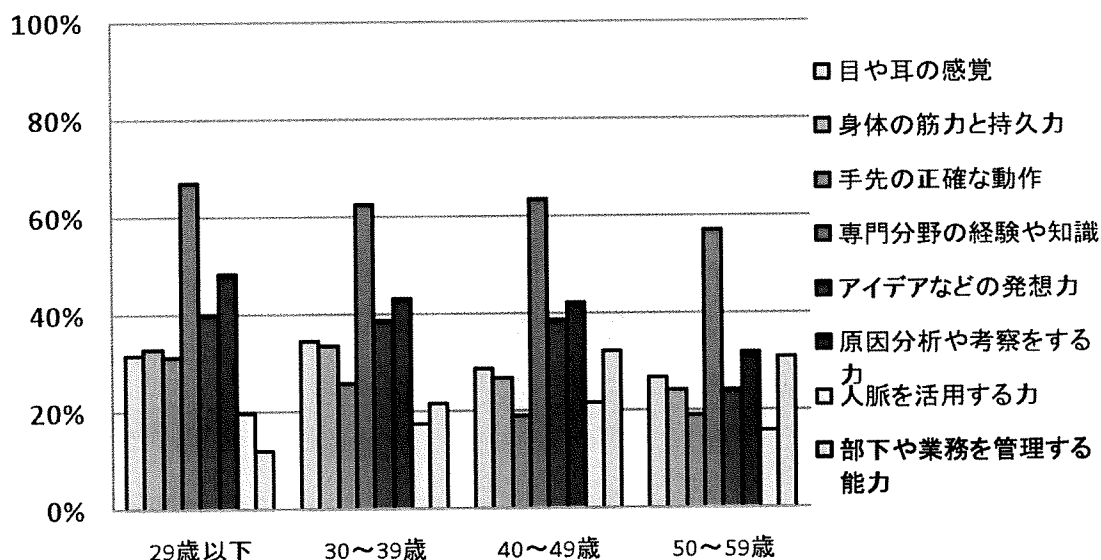


図 3-50 現在の仕事に必要な能力 年齢別・男性（複数選択）、N=2,485

### 現在の仕事に必要な能力 年齢別・女性(複数選択)

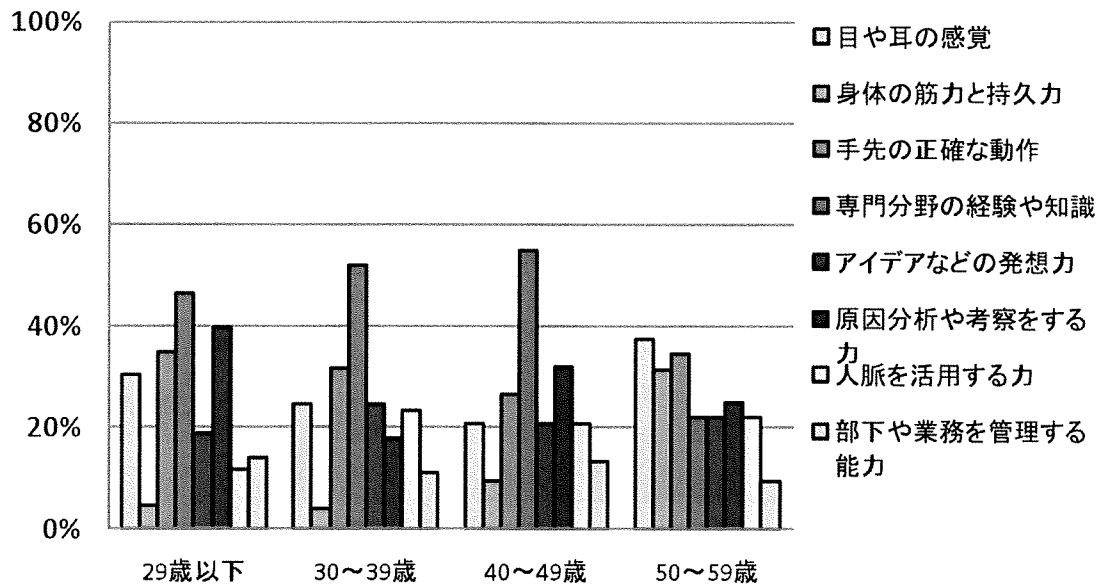


図 3-5 1 現在の仕事に必要な能力 年齢別・女性 (複数選択)、N=204

### 現在の仕事に必要な能力 職種別・男性(複数選択)

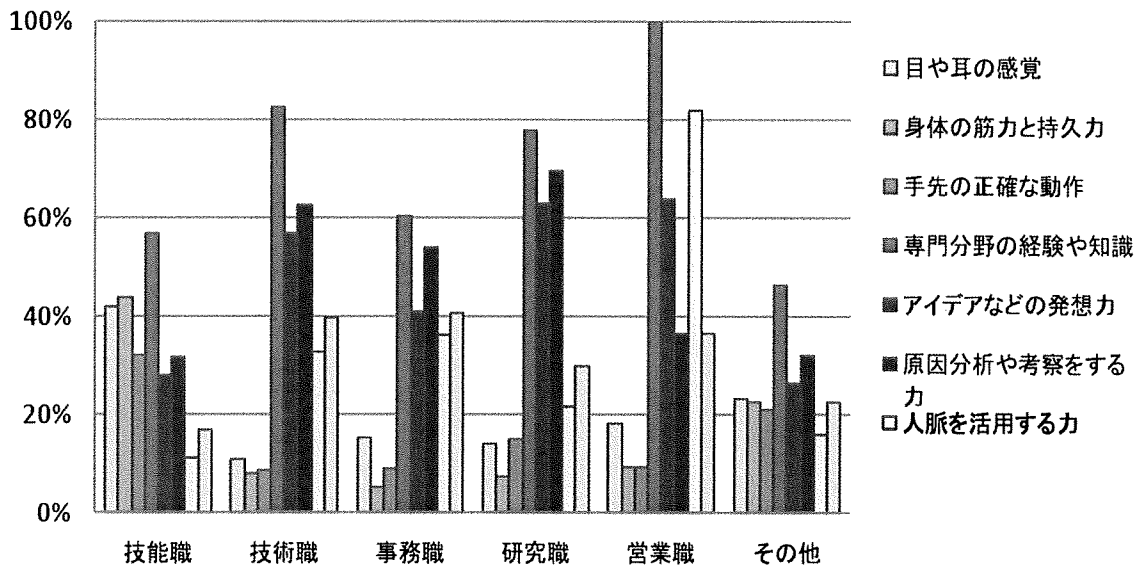


図 3-5 2 現在の仕事に必要な能力 職種別・男性 (複数選択)、N=2,485

### 現在の仕事に必要な能力 職種別・女性(複数選択)

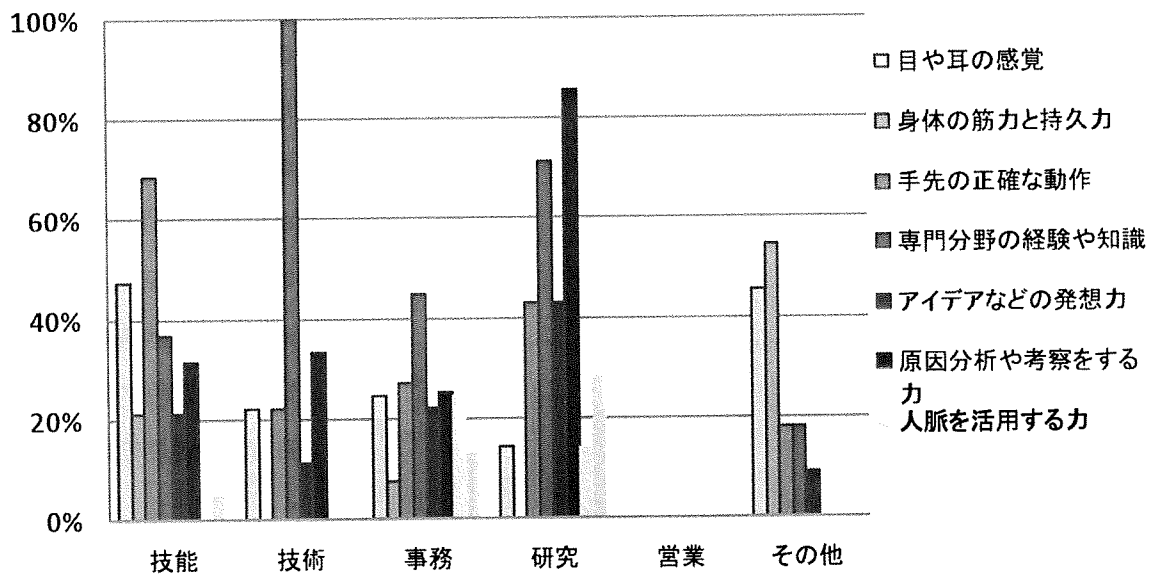


図 3 - 5 3 現在の仕事に必要な能力 職種別・女性 (複数選択)、N=204

(ウ) 60歳以上の再雇用に関する希望はいずれですか。(図3-54~57)

60歳の定年後に、いつまで勤務したいと考えているかを尋ねた。若い年齢層では、現時点ではわからないとするものが多かったが、それ以外では男性の場合、全年齢で65歳くらいまで勤務したいというものが20~45%で最も多く、60歳以降は勤務したくない、あるいは60歳未満で退職したいというものの合計20%の2倍以上だった。一方女性の場合、60歳以降は勤務したくないというものは全体で21%と最も多く、60歳未満で退職したいものと合わせ、29%とそれ以降まで働きたいという27%とほぼ同じ割合であり、男性に比べ働き方に対する希望は意見が分かれていた。職種別でもわからないというものを除くと、どの職種でも65歳くらいまで勤務した者が最も多かった。

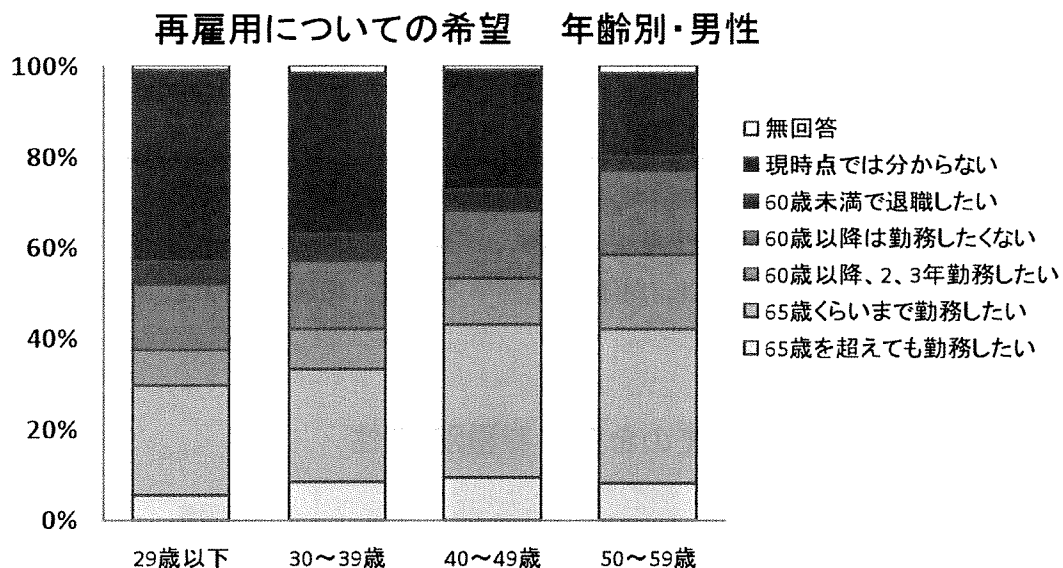


図3-54 60歳以上の再雇用に関する希望 年齢別・男性、N=2,485

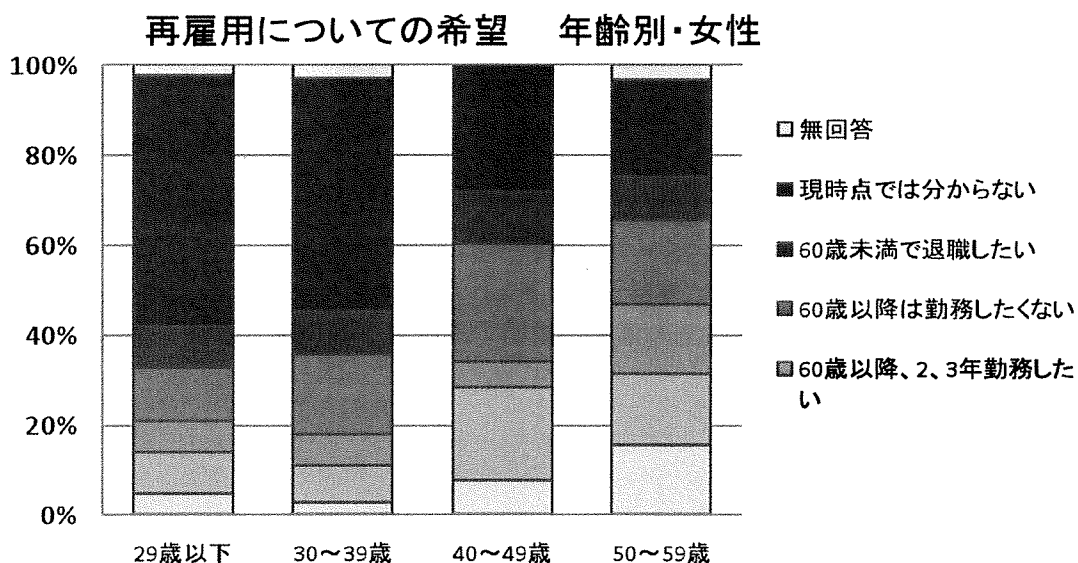


図3-55 60歳以上の再雇用に関する希望 年齢別・女性、N=204

### 再雇用についての希望 職種別・男性

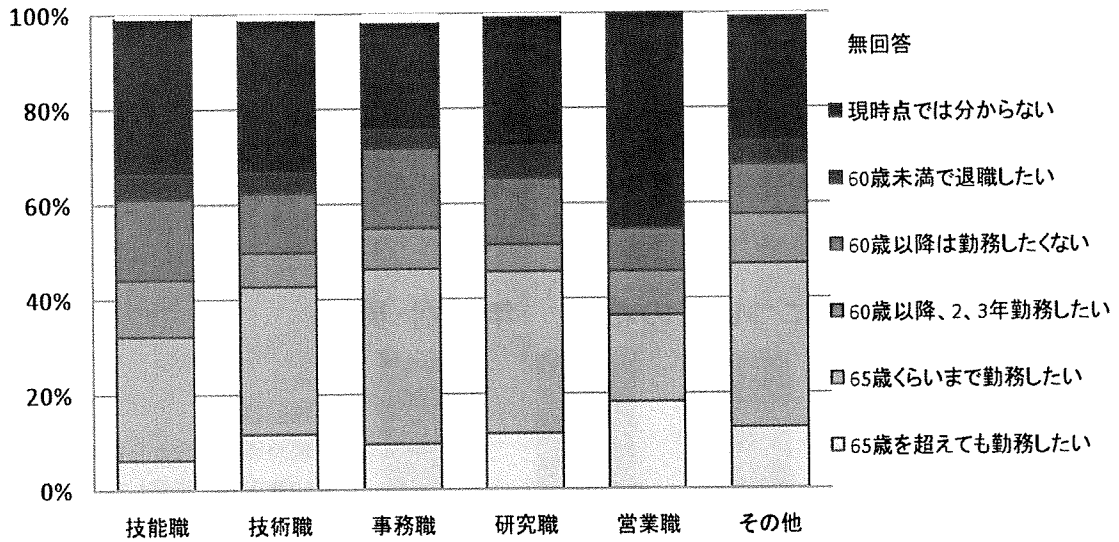


図 3-56 60歳以上の再雇用に関する希望 職種別・男性、N=2,485

### 再雇用についての希望 職種別・女性

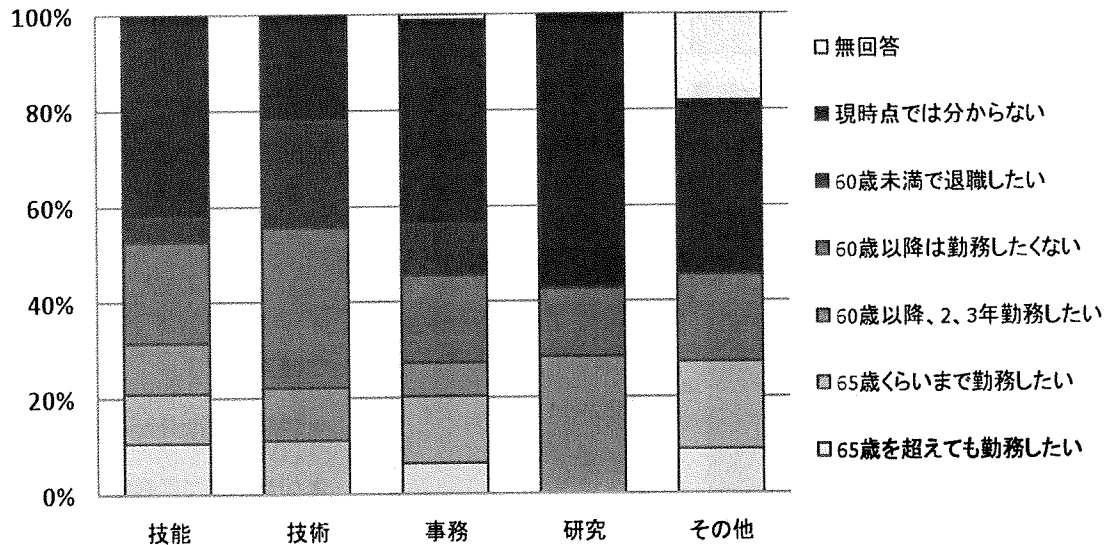


図 3-57 60歳以上の再雇用に関する希望 職種別・女性、N=204

(エ) 会社があなたの再雇用の可否を判断する手続きに関するあなたの意見はいずれですか？  
 (複数選択) (図 3-58~61)

再雇用の可否を判断する際に、事業者が在職中の労働者の健康情報を利用することに対する労働者の意見を尋ねた。男性では、人事が産業医に意見を尋ねること、健康診断を実施すること、過去の健康記録を参照すること、過去の病欠や休職の履歴を参照することなど、在職中の健康情報を判断材料として利用することに肯定的な意見が、60歳までは年齢とともに上昇していく傾向がみられたが、いずれの項目も50%を超えるものはなかった。一方女性では、30歳代で肯定的な意見が低下し、その後わずかに上昇する項目が多かった。最も受け入れられやすかった項目は健康診断の実施で男性が38%、女性が34%であった。次いで高かったのは、人事が産業医の意見を尋ねること、男性が21%、女性が20%であった。改めて健康状態を評価すべきでないという意見は男女それぞれ5%、4%と低かった。

職種別でも、すべての職種で最も受け入れられやすかった項目は健康診断の実施だった。その他、職種による大きな傾向の違いはみられなかった。

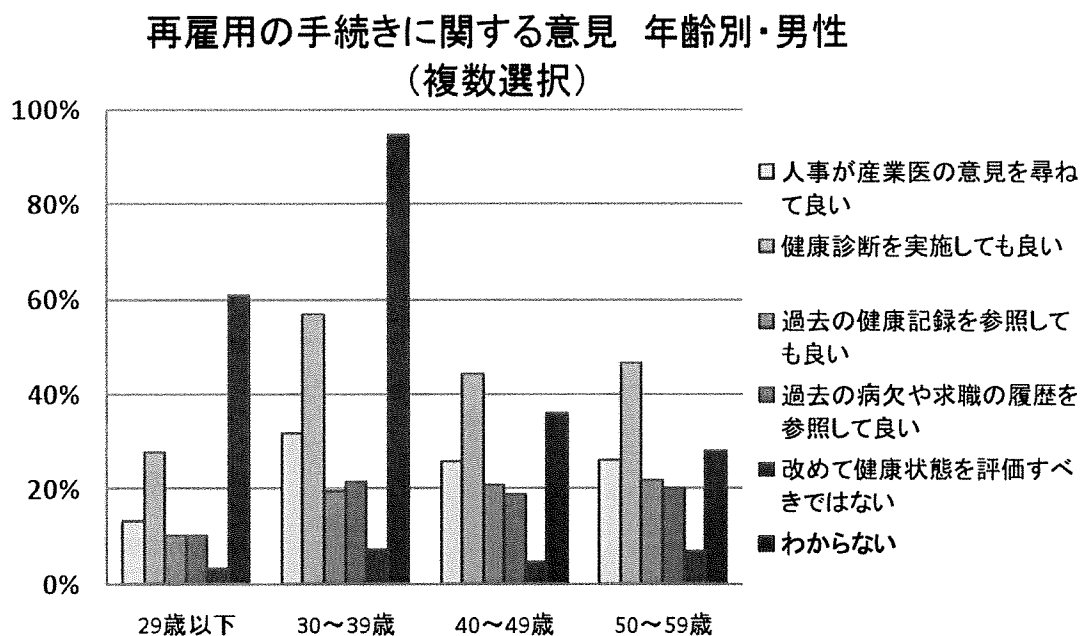


図 3-58 再雇用の手続きに関する意見 年齢別・男性 (複数選択)、N=2,485

### 再雇用の手続きに関する意見 年齢別・女性 (複数選択)

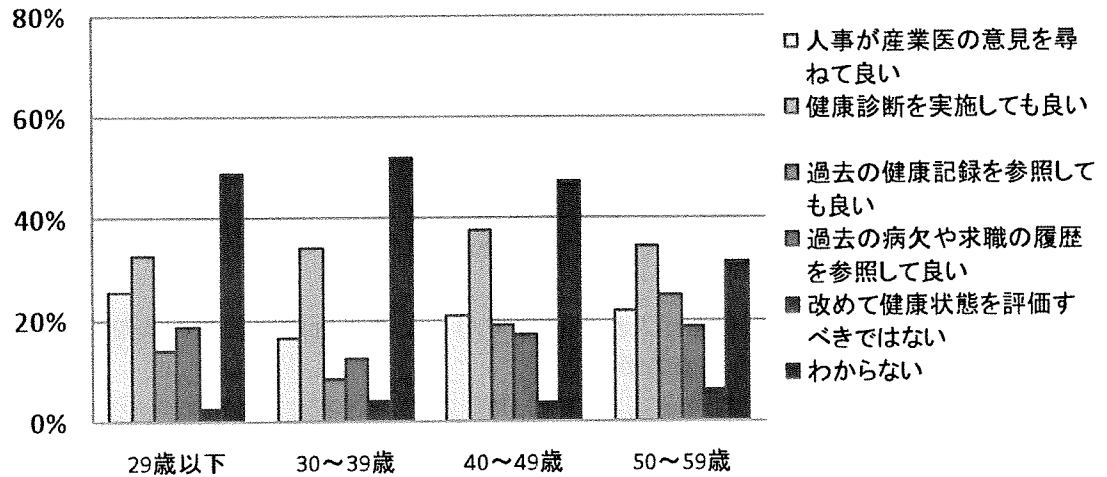


図 3 - 5 9 再雇用の手続きに関する意見 年齢別・女性 (複数選択)、N=204

### 再雇用の手続きに関する意見 職種別・男性 (複数選択)

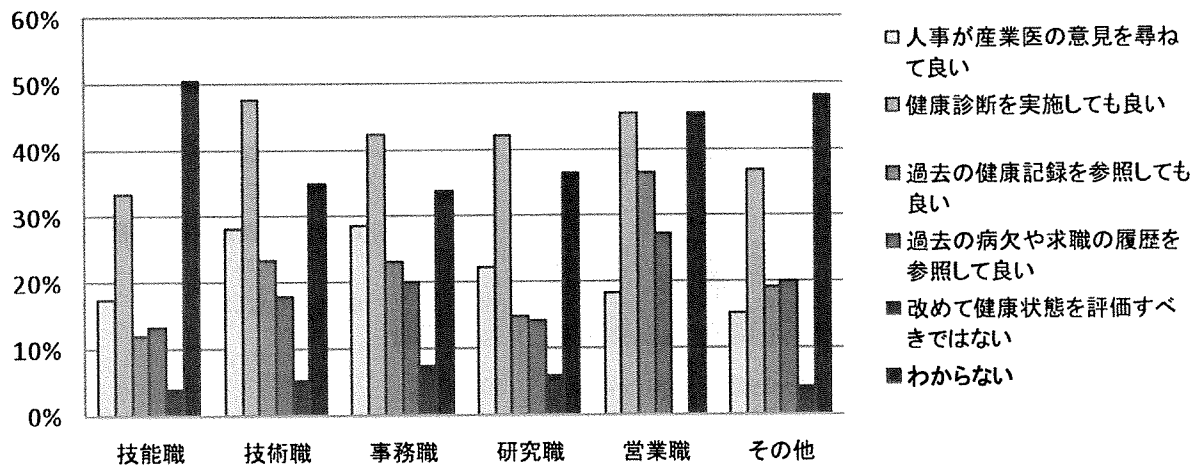


図 3 - 6 0 再雇用の手続きに関する意見 職種別・男性 (複数選択)、N=2,485

再雇用の手続きに関する意見 職種別・女性  
(複数選択)

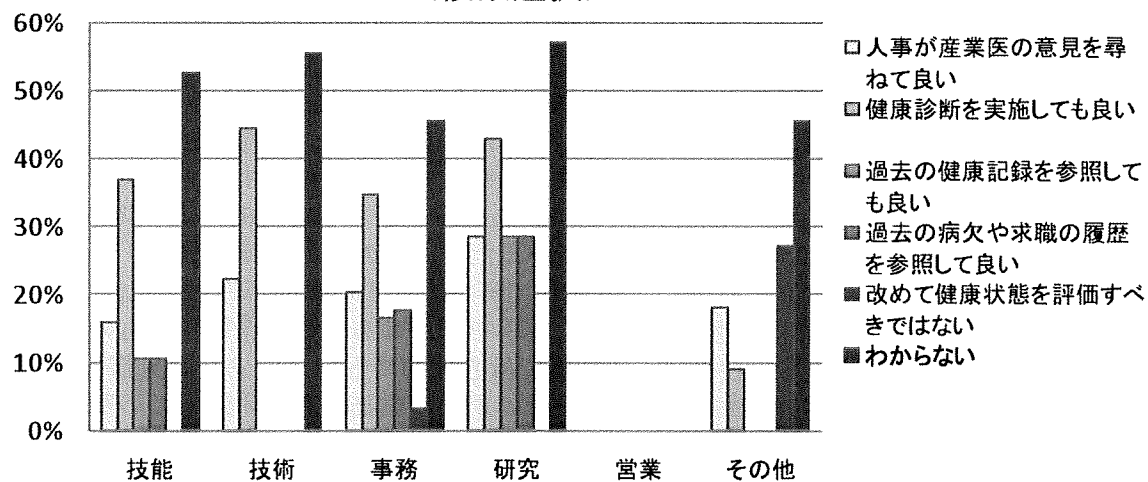


図3-61 再雇用の手続きに関する意見 職種別・女性 (複数選択)、N=204



(オ) 再雇用された場合の働き方に関するあなたの希望はいずれですか？（複数選択）

(図 3-62~65)

再雇用後の働き方に関して、男性では全年齢において、これまでの技能、知識、経験を活かせる仕事を希望するものが 33~55%と最も多く、年齢が上がるにつれてその割合は増加した。再雇用に際して、改めて教育や訓練を受けることを希望するものは 2~4%とわずかであった。また、心理的ストレスや身体的負荷の少ない業務、あるいは労働時間が短い業務を希望すると回答したものは、いずれも 40 歳代をピークに上昇し、その後低下していた。女性では、男性ほど一定の傾向はみられなかったが、同様にこれまでの技能、知識、経験を活かせる仕事を希望するものが 33~45%と最も高く、再教育や再訓練の希望は 0~8%と低かった。これまでよりも心理的ストレスの少ない仕事を希望するものは、男性同様 40 歳代がもっとも高かったが、その他の身体的負荷、労働時間については、年齢が上がるにつれむしろ低下し、50 歳代で再び上昇する傾向がみられた。

男性の職種別では、いずれの職種でも技能、知識、経験を活かせる仕事を希望するものが 38~64%と最も多かったが、次いで事務職、技術職、研究職では心理的ストレスの少ない業務を希望するものが 29~42%と高く、営業職、技能職では身体的負荷の少ない業務を希望するものの割合が 27%、30%と高かった。女性の職種別では研究職において、心理的ストレスの少ない業務と回答した者が 43%と最も高くそれ以外の技能、技術事務職では男性同様、技能、知識、経験を活かせる仕事を希望するものが 42~44%と最も高かった。2 番目に高かった項目は職種によりさまざまであり、技能職では短時間の業務の 32%、技術職、研究職では身体的負荷の少ない業務 22~29%、事務職では心理的ストレスの少ない業務 41%などであった。

### 再雇用後の働き方に関する希望 年齢別・男性 (複数選択)

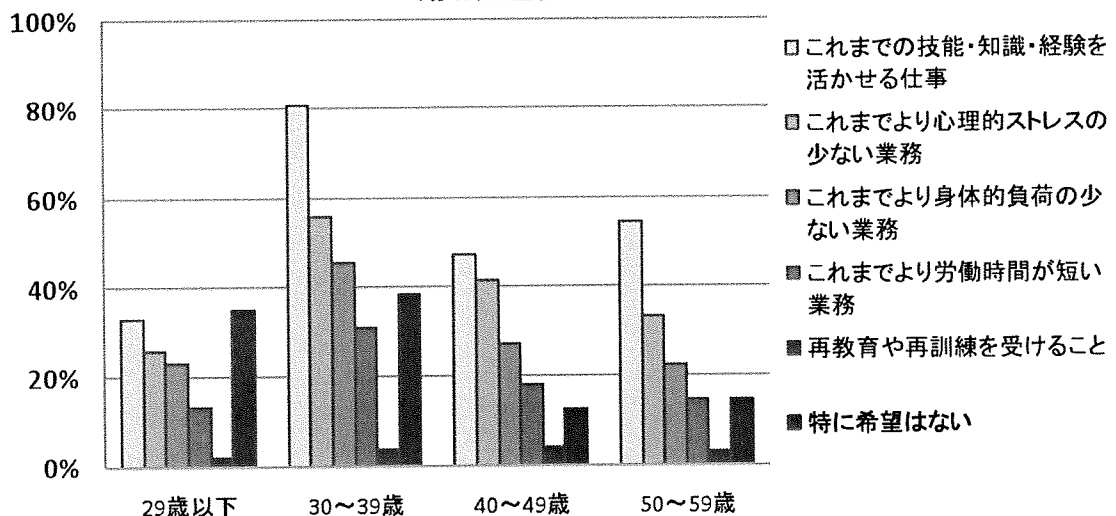


図 3-62 再雇用後の働き方に関する希望 年齢別・男性 (複数選択)、N=2,485

### 再雇用後の働き方に関する希望 年齢別・女性 (複数選択)

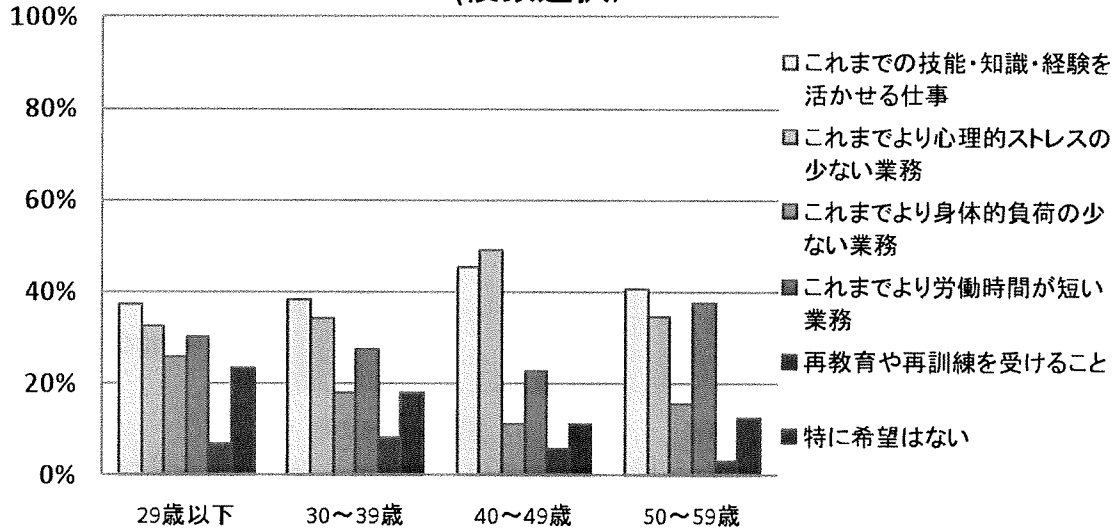


図 3 - 6 3 再雇用後の働き方に関する希望 年齢別・女性 (複数選択)、N=204

### 再雇用後の働き方に関する希望 職種別・男性 (複数選択)

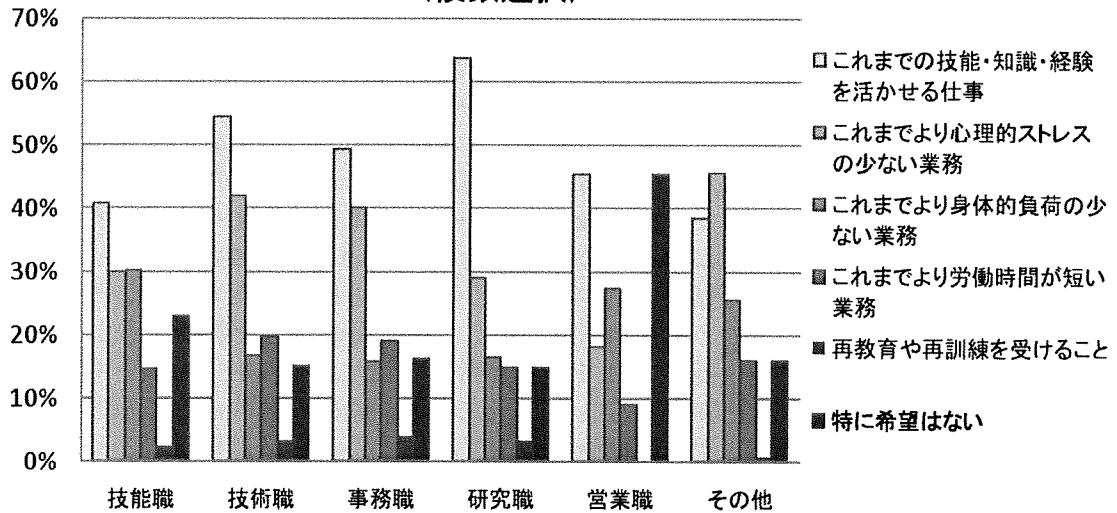


図 3 - 6 4 再雇用後の働き方に関する希望 職種別・男性 (複数選択)、N=2,485

### 再雇用後の働き方に関する希望 職種別・女性 (複数選択)

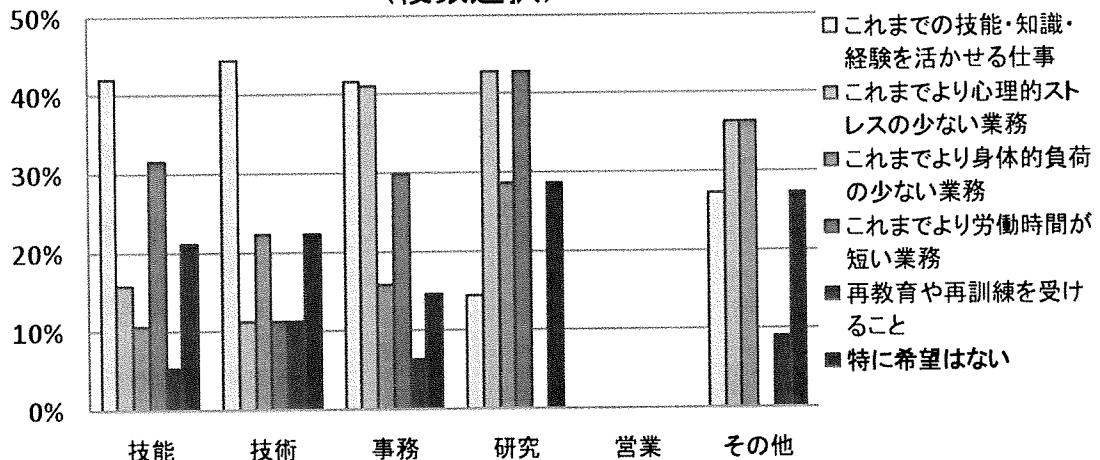


図 3-65 再雇用後の働き方に関する希望 職種別・女性 (複数選択)、N=204

#### 3-5-3. 考察

1. 定年退職後の働き方については、生活基盤の状況で異なってくるのではないかと考え、60歳から公的年金受給可能年齢までの生活資源について尋ねたが、非公的年金などの割合は低く、貯金の取り崩しと答えたものが過半数だった。男性で65歳まで働きたいという者が最も多かったことは、このような公的年金支給開始の時期と関連していると考えられた。
2. 現在の仕事に必要とされる能力は、男性ではいずれの職種でも専門分野の経験や知識が46~100%と最も高く、その他では、職種の特徴がよく表れた結果であった。女性においても同様であったが、技能職では男性と比較し身体の筋力と持久力ではなく手先の正確な動作や目や耳の感覚を挙げるものも目立ち同じ職種でも男女差の特徴が表れていた。
3. 労働者の再雇用を判断する際に、事業者が保有する現在や過去の労働者の健康情報が用いられることがあると予想される。しかしこれは本来、健康管理のために得た情報を目的外に使用している状態とも解すことができ、その取扱いについては慎重に検討すべきである。このような情報の取り扱いについて労働者がどのような意識を持っているかを知る目的で、再雇用の手続きに関する意見を尋ねた。その結果、約半数がわからないと回答したものの、その他では、健康状態を評価すべきでないという意見は5%と低く、再雇用の可否を判断する上で健康状態を考慮することはある程度必要と認識されていると考えられた。その中でもっとも受け入れられやすかったものは、健康診断を実施すること35%であり、過去の健診記録や病歴を参照することについては15~17%と低く、過去の健康情報まで利用することには抵抗があるものが多いと考えられた。産業医の意見を聴取することを可とするものは20%程度に留まった。
4. 再雇用後の働き方については、どのような働き方を将来の理想と考えているかを知る目的で質問したが、実際にはそれ以外に、現在の業務で負担に感じていることが結果に反映されている様子がみられた。例えば、男性の年齢別で心理的ストレスや身体的負担の少ない業務、あるいは労働時間が短い業務を希望すると回答したものは40歳代をピークに上昇し、その後低下していた。この年代はワークライフの中で最も責任や業務負担が大きくなる時期と推測され、その負担感が影響している可能性が考えられた。同様に職種別で、技能職・営業職といった身体活動性の高いと考えられる職種では身体的負担の少ない業務を、事務職、技術職、研究職のようなデスクワークでは逆に心理的ストレスの少ない業務を希望するものが比較的多かった。女性においては、身体的負担の少ない業務や短時間業務を希望する者が50歳代で上昇しており、体力の低下などの要因が考えられた。

#### 3-5-4. まとめ

労働者の再雇用に対する希望や意識について調査を行った。どのような働き方をいつごろまでしたいかは、性、年齢、職種、労働者の置かれている状況により異なる傾向が認められると考えられた。エンプロイヤビリティをセルフチェックする場合、このような労働者の背景も要素として取り入れられると、本人の希望する再雇用への適応を評価するツールとしてより望ましいものになると考えられた。

また、再雇用に際して健康状態を雇用者が検討することを否定する労働者は少なく、健康診断を実施することにも一定の理解があったが、過去の健康情報や産業の意見を参考にすることについては、賛成する者は少なく既存の健康情報をどのように利用していくかは今後さらに検討する必要があると考えられた。